

# 部活動運営等の方向性について

## (1) 部活動(常設)の状況

	運動部	文化部
開成	陸上・バレーボール・男女バスケットボール・男女卓球 女子ソフトテニス・野球・サッカー	吹奏楽・創造
陽明	陸上・男女バレーボール・男女バスケットボール 男女卓球・バドミントン・野球・(サッカー)	吹奏楽・美術・自然
上庄	男子野球・男子バレーボール 女子バスケットボール・女子ソフトボール	吹奏楽
尚徳	陸上・女子バスケットボール・野球	カルチャー
和泉	陸上・剣道・(卓球)	

## (2) 平成20年度以降に廃止や統合した部活動

	運動部	文化部
開成	H25男子ソフトテニス部を廃止 (H24の夏季大会まで活動)	H22理科部と技術部を統合→理科・技術部 H23理科・技術部を改称→科学技術部 H22家庭部と美術部を統合→家庭・美術部 H23家庭・美術部を改称→創作部 H28科学技術部と創作部を統合→創造部
陽明	H20 剣道部を廃止 H30 女子ソフトボール部の休部	H23 科学部と映像表現部を統合→自然部
上庄	なし	
尚徳	H25 8月 男子バスケットボール部の休部 H25 8月 女子バレーボール部の休部	H25 11月 吹奏楽部の休部
和泉	なし	

# 部活動運営等の方向性について

## (3) 意見交換会での意見

部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。

教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手がいるので、競う相手がなくなる訳ではないと思う。

中学校と小学校では、根本的に問題が違ふと感じる。中学校が直面しているのは部活の問題。一緒に議論しているが、抱えている問題が違ふので中学校を先行して考えるなどをしないと、先に進まないと思う。

早く再編の方向性を決めた方が良い。中学校における部活動は大切に、たくさん部活があった方が良い。いろいろな絆が生まれる。中学校2校ぐらいにして、競い合った方が良い。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。

今、スポーツなどで、やりたい子がやれない、選べない状況で、小学校でスポ少などの団体競技をしても、中学校で個人競技に変わる子どもがいる。

部活については、市が教育の一環として割り切るのであれば、中学校対抗にする必要があるのかと思う。競い合いたいのであれば、クラブチームに任せるなど、部活をどう捉えるかを示した方がいい。

その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違ふ競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。

小規模校ほど地域の人が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。

# 部活動運営等の方向性について

## (4) 部活動の課題と教育委員会の考え

### ➤ 意見交換会、アンケートからの課題

生徒数の減少により、多くの人数を必要とする部活動が休止、廃止され、選択肢が少なくなっている。

野球、サッカーについては、クラブチームに所属して活動し、部活動には所属しない生徒もいる。



### □ 教育委員会の考え

中学校の再編にあたっての基本姿勢を「市全体で育てる」としている。

中学校は、自立を支援することや、多様な人との関わりの中で社会的にもバランスの取れた人間性を育てることを基本に考えていく方針である。

このため、専門教科教員を配置し、全教科において知的にも情操的にもバランスの取れた教育を保証できる規模に移行することで、部活動の選択肢も広がるものと考える。

ただし、部活動のあり方については大きな過渡期を迎えている時代であり、社会スポーツとの適切な関係も模索しながら進めたい。